

Laser Detector
SS-50G



グリーンレーザー墨出器専用受光器SS-50Gをお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、受光器SS-50Gの概要、操作方法について説明しています。安全かつ効率よくお使い頂く為に本書をよくお読みいただき正しくお使い下さるようお願いいたします。

- この取扱説明書を必ずお読みになり、常時、機械と同じ場所に保管して下さい。
- 製品の仕様及び外観を改善のため予告なく変更することがあります。
- 掲載の図は、説明をわかりやすくするために、実際とは多少異なる場合があります。あらかじめ御了承下さい。

▲安全上のご注意

1. 作業時に、レーザービームは絶対に直接のぞかないで下さい。視力低下を招く場合があります。
2. 電池や本体を火中に投入しないで下さい。電池が破裂し、けがや火傷を起こす恐れがあります。
3. 絶対に分解しないで下さい。(故障、感電の原因になります)
4. 本体の異常に気がついたときは点検修理に出して下さい。
5. 修理は必ずお買い求めの販売店に依頼して下さい。(ご自身で修理されたものについては、当社は保証いたしません)

▲使用上のご注意

1. 直射日光や雨水などを受けない場所でご使用下さい。
2. 落下させたり強い振動を与えないで下さい。
3. 精密部品で構成されております。分解や乱暴な取扱いは避けて下さい。
4. 作業は施工者の技術責任で行われるものであり工事不良に関わる一切の責務には応じられません。
5. 高温・多湿になる場所では保管しないで下さい。
6. 長時間使用しない場合は電池を抜き取り墨出器本体の収納ケースに入れて保管して下さい。
7. 受光窓は傷や汚れのない状態で使用して下さい。お手入れは受光窓が傷付かないように、乾いたやわらかい布で軽くホコリを拭き取って下さい。また、本体についてもシンナーなどの溶剤は使用しないで下さい。
8. 受光器は、本機より射出されるレーザー光線以外にも蛍光灯、工事灯のほか、変調された光あるいは変調された電波(空港内及びその周辺等)などに反応する場合やレーザー光を受光できない場合があります。このような時は原因と思われる変調光または変調電波を停止させるか、遮断して測定を行うようにして下さい。
9. 受光器はガラスや水溜り、金属やビニールなどの高反射面の反射レーザーに反応する場合があります。ご使用の際は周辺にこのような高反射物がないことを確認して下さい。
10. レーザーは陽炎や高湿により揺らぐことがある為測定が不安定になる場合があります。このような環境下でのご使用は避けて下さい。
11. グリーンレーザー墨出器専用受光器SS-50Gは弊社のグリーンレーザー墨出器との組み合わせのみにご使用下さい。

仕様

表 示	高輝度LED(3色)、正面・側面・裏面のトリプル表示、及びブザー音
検 出 距 離	約1.5m ~ 最大約50m (但し、レーザーライン中央付近、使用環境により異なる)
検 出 精 度	15m以内: ±0.5mm 35m未満: ±1.0mm 35m以上: ±1.5mm
電 源	単4乾電池×3本
連 続 使 用 時 間	約50時間(アルカリ乾電池使用時)
使 用 温 度 範 囲	-20℃ ~ +50℃ 結露なきこと
防 塵・防 水	有 IP56相当
電 池 残 量 警 告	有 電源パイロットランプ点滅
オ ー ト パ ワ ー O F F	有、最後に操作又は受光後約6分
サ イ ズ / 重 量	150×52×19mm / 145g(電池含む)

防塵 防水性能について

本機の防塵、防水性能はIP56相当です。使用にあたっては以下のことにご注意下さい。

●IP56とは

防水性能・・・『いかなる方向からの水の直接噴流を受けても内部に水が入らない』という規格です(耐水形)

防塵性能・・・『器具の所定の動作及び安全性を阻害する量のじんあいの侵入から保護されている』という規格です(防塵形)

※本機を水中に入れないで下さい。本機は水の直接噴流からは保護されますが、水中では保護されません。また、お手入れの際、水洗いは絶対にしないで下さい。

※本機は水しぶきからは保護されますが雨天時の使用、特に受光窓に水滴が付くとその水滴がレンズ効果を起こし正しくレーザーを受光できません。**必ず水滴を拭き取ってからご使用下さい。**

※電池BOXフタはしっかりと締めて下さい。しっかりと締めた状態でのみ、保証する防塵防水性能を発揮します。

※電池BOX内部に塵や水分がつかないように十分に注意して下さい。この部分から機械内部に塵や水分が浸入すると、故障の原因となります。

各部の名称



ご使用方法

■電池の装着

- ①受光器表面下部にある電池BOXフタのネジをコインなどを使用して緩め、電池BOXフタを取り外します。
- ②電池収納部の(+), (-)表示に合わせて、単4乾電池3本を電池収納部へ挿入します。
- ③電池BOXフタのネジをコインなどを使用してしっかりと締め、電池BOXフタを取付けます。このとき防塵防水性を維持する為にフタにズレがなくしっかりとフタが閉まっている事を確認して下さい。



■ 操作パネル



電源のON/OFFが出来ます。
電源が入ると赤色の電源ランプが点灯します。

※電源をONにした直後、3色のLED表示部が1回だけ点灯しますので、LED表示部のランプの球切れ確認ができます。



ボタンを押すごとに遠距離受光モードと近距離受光モードに切り替わります。

緑色ランプ ●: 近距離受光モード
赤色ランプ ●: 遠距離受光モード

※電源を入れると本機は近距離モードで立ち上がります。

ポイント:『遠距離、近距離受光モードの使い分け』

通常は近距離受光モード(緑色ランプ)で作業して下さい。近距離モードで受光できない距離、おおむね10m以上(環境により若干異なります)の距離の時に遠距離モード(赤色ランプ)で作業するようにして下さい。**7m以下の場合には遠距離モードでの作業は絶対にしないで下さい。**



ボタンを押すごとに受光ブザー音のON/OFFが切替可能です。

注意: 電源ランプが点滅していたら、電池残量がわずかというサインです。新しい電池と交換して下さい。

注意: 電源は、レーザー光線を受光せずにキー操作もしない状態で約6分続くと、自動的に切れます。再び電源を入れる時は、もう一度電源ボタンを押して下さい。

■ 基準位置の検出

- ① 墨出器本体よりレーザーを照射します。
- ② 測定位置において、受光器の高さ位置をほぼ墨出器本体のレーザー照射口の高さに合わせます。
- ③ 受光器の表面をほぼ墨出器本体に向け、受光器を上下(垂直レーザーライン受光時は左右)させて受光ブザーが鳴る位置(又は受光ランプが点灯する位置)にします。
- ④ さらに受光ランプ(又は受光ブザー音)に従って受光器を上下(垂直レーザーライン受光時は左右)させ、基準位置を求めます。



受光器が低いので受光器を上移動して下さい。
ブザーは“ピッピッ”と短い断続音



ここが基準位置です。
ブザーは“ピー——”と連続音



受光器が高いので受光器を下移動して下さい。
ブザーは“ピーッピー”と長い断続音

■ クランプの使用方法

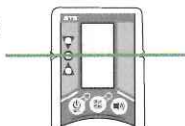
- ① 受光器をスタッフやバカ棒に取付けて使用するときは、付属の受光器用クランプをご使用下さい。
- ② 基準位置を検出する時は、固定ネジを軽く緩め、受光器をスタッフに沿って上下に移動させます。



■ ご使用方法のポイント

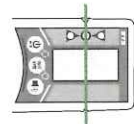
■ 水平ラインの受光

右図のように受光器を縦状態で保持し気泡管を合わせた状態で墨出して下さい。

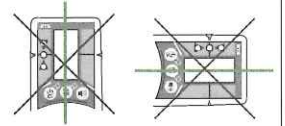


■ 垂直ラインの受光

右図のように受光器を横にして気泡管を合わせた状態で墨出して下さい。



※受光する場合は、レーザー光が受光窓に対して、必ず横切る方向で受光して下さい。右図のように長手方向での使用は、精度がでませんので、行わないで下さい。



また、受光器を横向きに使用する場合、右図のように出来るだけレーザー光または基準線と90°になるように、あるいは墨出器本体と正対させて使用して下さい。



さらに受光器を横向きでマークする時は図のように受光器表面のセンターマークの溝にペン先を差し込んでマークして下さい。受光器の裏面からはマークしないで下さい。



SS-50GはLEDの色が上から赤・緑・黄色と異なるので遠方に受光器を置いて地墨線にレーザーを合わせる作業をする時レーザーのズれている方向が簡単に認識出来ます。



レーザーは右にズれています。墨出器を回転させて左にレーザーを移動します。



レーザーは地墨線上にあります。



レーザーは左にズれています。墨出器を回転させて右にレーザーを移動します。

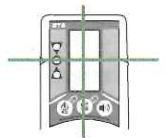
■ 故障かな?と思ったら

・レーザーを受光できない

- A. 受光器の電源は入っていますか。
- A. 電池の+、-は正しく装着されていますか。
- A. 電池の残量を確認して下さい。
- A. 墨出器のレーザーは照射されていますか。
- A. 蛍光灯や工事灯のほか、変調された光あるいは変調された電波(空港内及びその周辺等)などの付近では受光できない場合があります。それらを遮断してご使用下さい。

・誤作動する。

- A. 受光距離約1.5m以下では使用しないで下さい。必ず墨出器本体より約1.5m以上離してご使用下さい。
- A. 受光距離7m以下で遠距離受光モードで作業すると誤作動する場合があります。7m以下の場合には近距離受光モードで作業して下さい。
- A. 受光器使用時は水平ラインと垂直ラインを同時に照射しないで下さい。図のように水平ラインと垂直ラインが交差した場所付近では受光器が誤作動します。受光器を使用する場合は使用しないレーザーラインは照射しないで下さい。
- A. 蛍光灯や工事灯のほか、変調された光あるいは変調された電波(空港内及びその周辺等)などの付近では誤作動する場合があります。それらを遮断してご使用下さい。
- A. 受光器はガラスや水溜り、金属やビニールなどの高反射面の反射レーザーに反応する場合があります。ご使用の際は周辺にこのような高反射物がないことを確認して下さい。
- A. レーザーは陽炎や高湿により揺らぐことがある為測定が不安定になる場合があります。このような環境下でのご使用は避けて下さい。



Survey Techno-Science
STS株式会社

本社
〒468-0003 名古屋市天白区瀬の鼻1丁目1603番地
TEL: 052-847-8880(代) FAX: 052-847-8883
URL: http://www.sts-s.co.jp E-mail: sts-s@sts-s.co.jp

<商品に関するお問合せは>
STSサービスセンター

フリーダイヤル
0120-808-095